

横浜市立茅ヶ崎東小学校

令和3年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針（1）学校経営中期取組目標

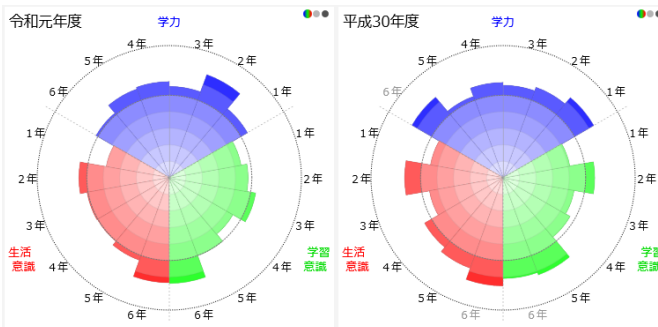
学校経営中期取組目標

- 全職員が学校経営に主体的に参画し、児童や保護者、地域から信頼される楽しく豊かな学校づくりを目指します。
- ・一人ひとりの子どもが、学習の楽しさを実感しながら、主体的に問題解決に取り組む授業を推進し、学力の向上を図ります。
- ・一人ひとりの子どもが、自己有用感をもち、自他との違いを認め、大切にしながら安心して学校生活を送れるようにします。
- ・小中一貫ブロック校や家庭、地域と連携して、地域の中でともに子どもを育む学校づくりを進めます。

（2）学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	それぞれの教科で、一人ひとりが課題を発見し、体験的な活動などを通して、課題解決していく力を高めていく。	① 各教科、各単元のねらいに沿って、身につけるべき内容の共通理解をもって基礎基本の定着を図る。 ② 重点研究テーマを「生き生きと主体的に学び続ける子どもを目指して」と設定し、カリキュラムマネジメントを中心に学習指導を工夫し、子どもが主体的に取り組める活動を設定する。
担当	重点研究 推進委員会	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



（1）学力の概要と要因の分析

新型コロナウイルスの影響から令和2年度において、学力向上調査を実施していない。そこで、令和元年度の調査結果から振り返ると、学力、学習意識及び生活意識ともに市平均を上回っているものが多い。また、多くの学年が、令和元年度よりも学力が高まっている。また、生活意識では、「勉強が好きか」という設問でも横浜市の平均より高い学年が多い。しかし、理科の学習意識が例年度と比較しても低下傾向にある。年間を通して児童が主体的に予想、実験、考察等に取り組むことができるような授業づくりが実現でき、学習意識の向上に結びつけていきたいと考える。

（2）教科学習の状況

- 国語科：令和元年の第1学年と第6学年は「知識・理解・技能」が市の平均を下回っている。その他の学力については、どの学年も概ね平均を上回っている。
- 算数科：令和元年の全ての学年、「知識・理解」「数学的な考え方」「技能」は市の平均を上回っている。
- 社会科：令和元年の第3学年は「思考・判断・表現」は市の平均を下回っている。どの学年も、「知識・理解」「技能」は市の平均と同等か上回っている。
- 理科：令和元年の高学年は「知識・理解」が市の平均を下回っている。その他は、市の平均を上回り、特に「思考・表現」が上回っている。

（3）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

ここ数年間の経年変化の状況から、学校全体として生活意識は高い傾向にある。「授業では、自分の考えを発表していますか」で「はい」と回答した児童は、令和元年度と同様28%だった。市の平均を上回っている。この実態から、今後も表現・交流する際には、課題に対する考えを、子ども一人ひとりが明確にもち、それをわかりやすく発信できる能力をさらに伸ばしていけるよう指導を工夫することを継続する必要がある。

3 令和3年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 国語科を中心に、学習に動作化やロールプレイングを取り入れ、体全体で感じたことを、言葉にして自分の考えを表現する力をつける。
- 生活科を中心に、児童から出た言葉を気付きや思考のプロセスとして大切にし、他者（先生や上級生など）との関わりを通して、主体的に学習に取り組む機会を設ける。
- 年間を通して、ペア活動、仲間づくり活動を行い、安心して生活し、自己表現できる環境を整える。

2 学年

- 生活科をはじめとして各教科で、体験を通して考えたことを文章に書いたり、話したり、聞いたりする表現活動を大切にす。
- 学習の喜びを実感したり、自信をもって学習に取り組んだりできるよう支援することで、学習に対する意識を高めていく。
- 国語科を中心に、事柄の順序を考えながら話したり、文を書いたりし、相手に伝えたいことがより正確に伝えられるよう指導する。

3 学年

- 学習の中で、どうしてそうなるのかの理由や根拠をまとめる時間を確保する。考えを整理したり、他者に伝えたりする手段として、文章に書いたり、話したりする表現方法を大切にす。
- 国語科を中心に、順序に気を付けて話したり、書いたりする力をつける。
- 学校が安心できる場所として学習に取り組めるよう支援することで、さらに学習意識を高めていく。

4 学年

- 各教科の基礎基本を大切にし、学習を進める。
- 自分の思いや意見をもって学習活動ができるように、問題や課題の解決に向かうための学習計画をたてたり、振り返りをしたりすることで主体的に学習に取り組む機会を増やす。
- 課題について、ペアや小グループでの説明や意見を伝えたり聞いたりする表現活動を増やし、友達の考えとの共通点や相違点に気づくことができるようにする。

5 学年

- 根拠を明確にして説明したり、意見を述べたりするなどの活動を大切にす、自信をもって学習に臨めるような指導をする。
- 理科の関心を高め、意欲的に学習に向かう態度を育てる。
- 他教科や日常生活と関連付けたり分類・整理したりして考える学習と振り返りを計画的に位置付ける。

6 学年

- 文章の構成を考えたり、資料を準備したりして、自分の考えがより伝わりやすくなる表現方法を工夫する。
- 自分の考えについて根拠をもって伝えるとともに、他の考えのよさに気付いたり受け入れたりすることで、思考を深めていく。
- 関連付け、分類分け、多面的に考える等の学習を行うとともに、学習の振り返りを次に生かせるような学習を計画的に進める。

個別支援学級

- 個別学習の時間の充実を図り、一人ひとりにあった課題に取り組むことで、学習の楽しさを実感したり、学習への意欲を高めたりする。
- 行事や体験的な学習に向けた事前学習をすることで見通しをもって活動に参加し、人との関わりや集団行動がスムーズにできるようにする。また、その成功体験を積み重ねていく。
- 相手を意識して、自分の思いを選択したり、話したり、書いたりする表現活動に取り組む。